

障がいのある子どもたちの地域生活支援
子どもの育ちに大切な支援を考える
「パパ・ママ・子ども丸ごと支援～幼児期から成人まで」

かわさき子どもの権利の日市民企画事業 第20回フォーラム

社会福祉法人なごみ福祉会
療育相談でんでん虫
子ども相談室でんでん虫
相談支援専門員 栗原敦子

2022・11・12

法人の理念

共に生き 共に育つ

▶障がいの有無に関わらず
地域であたりまえの生活を

2022年度4月～

なごみ福祉会 42年目

でんでん虫 41年目



▶ **でんでん虫は、法人理念と共に**

◎待たせない◎断らない◎期限を切らないを理念に

4 1年間の月日を

利用者と様々な関りをしてきました。

療育相談ででん虫の活動の様子についてはHPをご覧ください。写真と一緒にご紹介しています。

子どもの生活の場とのつながり子どもの生活の場とのつながり

【学校支援】

川崎市立小学校の特別支援教室在籍児童と
教員への音楽療法を用いた集団活動の提供と、
教員への対応の相談に応じる活動。

【施設支援】

音楽を用いた集団活動を地域の成人作業所へ
の余暇活動支援や児童発達を支援事業所への発達支援
と職員からの対応の相談を受ける。

でん虫の学校や施設への音楽での集団活動に関わった学校の先生方や施設の職員と現場での関りが、顔の見える連携につながっていることが沢山あります。

**【学校教員との勉強会や
ワークショップ】**

先生方と子どもたちの将来や福祉との連携などの話や音楽活動のワークショップ

**地域を超えて仲間づくり
【サイエンスクラブ】**

○や×ではない答えを発見する楽しさとそれを共有する場

**親子で楽しい活動の共有と
相談できる場
【親子リズム】**

**地域の子どもたちや親子、
いろいろな他職種の方々
とのつながり**

法人の始まり なごみ園～なごみ保育園

社会福祉法人なごみ福祉会なごみ保育園（認可）

在園児のみならず

地域の親子への支援 かもめグループ

トライブラリー等など

地域の方々交流や取組は

なごみ福祉会やでんでん虫にとって

地域を意識した家族支援はあたりまえのことでした

障害のあるなしに関わらず誰もが訪れることが出来るように・・・
なごみ福祉会の理念の実現

地域子育て支援センターページブル
沢山の地域に住む親子が毎日遊びに来られる場所

発達への心配がある子や子育ての困り感を相談を気軽に相談できる受け止められる場所となる→子育て相談の段階

子育て支援センターには子育ての相談の段階で関わることが出来る
なごみ福祉会の理念でありそれは障がいの有無に関わらずすべての相談に通ずる大切な視点です

心配を感じた時にすぐ話せる、問える。

- ・ 心配、気持ちが落ち着かない、落ち込んでしまった。
- ・ トラブルがあった。子どもの様子につかれた。
- ・ 誰かと話したい。子どもと二人でいる時間が辛い。

などなどの時

子育て支援センターなら月～金（場
合によっては土曜）
いつでも来所。電話もOK

子どもの成長を母子が具体的に楽しい時間を共有できるような日常的な空間。
親子リズムなどの時間を持ったりし、子どもの変化を感じたり母も楽しむこと
を実感したりの経験を共に喜べる、共に見守れる、共有する誰かが居る

障がいの有無を診断する前に子育てを支える

特に乳幼児期に子育ての育てにくさや悩みを抱えて親子関係を悪化させ子育てに向かえない状況に陥らせない為の支援介入が重要であり、子どもの育ちを支えることにつながると考えました。そのために・・・

◎子育てに向かうお母さんの気持ちを支える

それは・・・

◎子どもにとっても困ったが長引かないように

子どもの様子を「心配」といフィルターを通さずにみとり、必要な支援・対応・教育・療育を正しく共に考える

子ども相談室でんでん虫 地域療育等支援事業



でんでん虫の理念「待たせない、断らない、期限を切らない」を大切に

相談者（児）を孤立させない取り組み

子どもの育ちの歴史を繋げる

相談者（児）をたらい回しにしない為の地域との連携を重要と考えて

○何処へどのように相談したらよいかわからない・・・障害の診断の有無は問わない

困っていることに対応する

○子どものことは相談は出来るが、子どもと向き合う親自身の相談をするところが少ない

○解決したと思ったらまた問題が・・・成長に伴い問題は変わってくる。継続の必要

○単なる対応の相談ではなく、子どもの発達、育ちを視野に入れ子育てを支える。

○成長した本人からの相談

○子どもの成長と家族の成り立ち

継続した関りを持つために・・・信頼関係

相談・訪問等は無料

相談で大切にしていること

- ▶ 具体的な対応を見出すことが、不安の解消に繋がると考える
 - ▶ 進級・進学をしても継続的に関わり、寄り添っていく
 - ▶ 家族の状況を把握しながら、必要な対応や支援につなげる
 - ▶ 長期的視野に立った支援
 - ▶ 子どもの育ちを意識する。共有する。
 - ▶ ★親だけががんばらなくていい
- 学校等教育機関・事業所、施設等と頼れるものは使う！
連携・協力・役割分担でつなげる

相談支援、計画相談とは違う

本来は子育てのはず なのに・・・なぜ？家庭でも療育

この数年。相談の傾向も変わってきました

今、児童発達支援事業をはじめ、

沢山の事業所や支援サービスも増えました

事業所それぞれの特色を選んで通所できるようになりました

抵抗のあった受給者証等も、利用に必要ななら受給者証もすんなりとりまします。

SNSの利用でまず情報を手軽に入手できるようになりました

いろいろな人の知恵や考え、取り組み支援情報をとれるようになりました

早く何とかしたいの気持ちで、敷居が高いと言われていた療育センターへの相談、その後の通園等の希望が増えました。

早めに子どもの特性を知ることに対応ができることになりました

川崎市には療育センター4か所。支援事業所や相談できるセンター機能も増えSNSなど情報を受け取ることも発信することも容易になったはず。川崎市立小・中学校には各学校に特別支援級と配置。

・・・なのに・・・

- ▶ 負担感は募り、子どもと向き合えずに辛いと訴える。
- ▶ 当事者の子を家族の中でどのように一員としたらよいのか？家族としての成り立ちや再生に悩む。
- ▶ 知的には問題ないが、社会性、自己調整の苦手からくる子の特性から学校にも居場所なく学校とも上手くコミュニケーションが取れない。
- ▶ 子どもは育ってきた。子どもの問題ではなく親が抱える問題の大きさ。
- ▶ なかなか、楽になってる印象がありません。なぜ？

でも、

お母さんたちの混乱しているような声や新規の相談は増えました。

- ▶ 療育センターの通園が終了してしまう。何もしないでいることへの不安
- ▶ 児童発達支援に行きたいが、紹介してくれない。自分で探す。見学する。手続する。
- ▶ **せっかく探しても、通ったら合わなかった。**
- ▶ 色々な情報があり何がいいのかわからい、解らなくなってきた。
- ▶ SNSの情報で自分の子にはあっていないことも取り入れてしまう。→**間違っ情報と混乱**
- ▶ 通うからには、治る？ 治せる？ 成果は？ →いろいろな療育に通う。成果が無いと、**合わなかったみたい。どんどん気持ちはあせりますよね。**
- ▶ 小学校上がるまでには、今の状態を治したい。座っていられるように。字が書けるように

お母さん達の一生懸命な気持ち

- ・ 家庭でも取り組んでみてくださいね。→やってみるけど上手くゆかない。イライラ、なんでできないの？
- ・ 子どもが行き渋り。連れていくこと負担になってきた。
- ・ お母さんたちの勉強会しましょう「ペアレントトレーニング」
→上手くゆかない私はダメ。→うまくゆかないことを伝えられない。
頑張って苦しい
- ・ 子どもと一緒にいることが苦痛。→毎日違う事業所へ預ける。→
子どもは混乱→負の連鎖

子どもにとって、その毎日は・・・

▶ 毎日違う事業所に通う ← いろいろな事情があるので一概にダメではありません

▶ 家庭での学習 親子ともに大変だけど、やらなくちゃ～

▶ 家庭での決まり事の多さ

「おうちでもやってみてください」

ここはお家なの？ 児童デイなの？ 学校なの？

子どもの視点と親御さんの視点の違い

子どもの育ちはどういうことなんだろう？

育つために必要なこと

今、必要な支援は何だろう

相談の中でのお母さんの心情に

- ・ 子どもの所属先はあるが、子どもの行動や成長・発達の相談はするが自分の辛さは相談したことがない。
- ・ 人知れず自分自身のことは後回しにして我慢。又は医療にかかり不眠や不安を服薬治療する

お母さんは日々いろいろと大きいこと小さいことのエピソードが沢山積みかさなっている。

お母さんたちは、何かあると自分を責めていたり、あの時・・・と悔やんだり。

▶ **それでは・・・子どもにとってもよい状況ではない毎日**

子どもを何とかしよう！

お母さんが子どもへの対応を上手にできるようになろう！

子どもの発達特性を親が理解し親が変わらなければ！

いわれたり、そう思わなくちゃと・・・でも、

本当は子どもと親が、「楽しいね」「嬉しいね」「よかったね～」

「可愛い」と思える瞬間や機会を親子が共に持てるほうが大切なのではないかな～家族だもの。

そう思う機会を作るのは誰かに手伝ってもらっていい。

そんなこと提案できないかな。そんなことを一緒に考えてくれる人や場所があれば・・・

もちろん子どもとのかかわり方、子どもの困ったことを切り抜ける手立てやアイデアは必要だけど・・・

子育てを支えることが出来れば。大変さだけを聞き取ってしまうと

- 子ども行動の困った
- ・ 家の中で遊べない
 - ・ いけないということを繰り返し行う
 - ・ 食事時間の大変さ
 - ・ 兄弟関係
 - ・ 自分の思うようにいかないときの自傷行為

いつも何かやってしまわないか、
いつも見ていなきゃいけない

外で何か事を起こしてしまったら
いつもごめんなさい

お母さんもお父さんも頑張ってる！

医師に大変さを訴える

薬の量が増える

でも、薬の量を増やすだけでいいのかな？

- ▶ 子どもの行動は何時でも何処でもなのか？
- ▶ 子どもの行動の意味は？なぜ？ **同じ行動に見えても理由はいろいろ**
- ▶ 子どもや保護者に関わる関係者の情報共有やケース会議はどのようになっていたのか？
- ▶ 子どもの困った行動への対応について親の頑張りだけで解決できるものなのか？
- ▶ お母さんの気持ちは？

正しくアセスメントをしないと間違った医療・教育・対応になってしまう

保護者は支援者や専門職ではないはず

保護者の苦しさ募り、不眠、不安
→服薬

子どもの育ちを期待できなくなる

～してみてもどうか？
～～やったらいいですよ
～～するべきです

やったけどできないよ～
上手くゆかないよ～
私の言うことは聞かないよ～



苦しいを発信できない

- ▶ 所属が複数あるのに問題がずっと継続的にある場合

生活の中で沢山の登場人物がいるのに

福祉事業所

学校

家庭

療育センター

区役所等

医療

周りにいる人が敏感さや意識と共に情報の共有や連携が出来ていれば

お母さんが問題を発信できないと子どもにとっても厳しい状態が続いてしまう

実はお父さんも苦しいを発する機会がない

- ▶ 相談できる人がいなかったのか？
- ▶ 相談することをしにくいお母さんなのか？相談していい状況だと認識できないくらい大変だったのか？

保育園や幼稚園、学校とのやりとり

- ・ じっとしてられません。療育施設に通ってはいかがですか？
- ・ 友達とのトラブルへの対応
- ・ 教室内での対応・配慮
- ・ 同じトラブルの繰り返し
- ・ 必要な配慮のお願いと思ったけど・・・「他の子と公平ではないので出来ません」
- ・ 「お母さん、どうしたらいいですか？」の逆質問。←相談したいのはこっちなんだな～
- ・ どこに入園できるかな？どこに入学・入級できるかな？
- ・ どこに進学できるかな？

学校により様々。→対応してくれるところを探して結局地域を離れることに。

何故そのような行動をとるのか？

困った行動に着目するだけではなくなぜ？を知るにはアセスメント
子どもの状態を知ること
も大切

お母さんの気持ちの支えは、子育てを支え 子ども育ちを支えること

- ▶ 時には子育てに向かえない時（時期）もある
- ▶ 子どもの育ちだけではなく、家族としての育ちにつながることに
- ▶ →家族の歴史

私たちができること・・・

私たち一般的に専門職・支援者といわれる福祉関係者は学校等の公的機関とも連携し地域社会がお母さん達の子育てを見守り支える視点を持ち続けられるような提案と地域づくりを考えてゆかなければと思います

- ▶ 子どもの成長に合わせて困りごとやエピソードも変化するので相談は期限や終結はせずいつでも継続して行うこと。

子育ては大変なものだけど 安心して子育てに向かうために

- ・ 支援の為の制度を探すだけでなく、**支えることが出来ること探したい
何処をどう支えたら楽？**を探す
- ・ 制度と制度の隙間を埋める
- ・ 支援者は子どもの成長・発達の様子や子どもの気持ちを
お父さんお母さんに伝え共有できているだろうか？
- ・ 対応というやり方を伝えるのではなくお母さんの心の支え

何故、継続した支援が必要なのか？

- ・ **児童・学齢期は子どもの成長や発達の時期であり
状況や困り感の変化しやすい時期（エピソードも変化）**

→同時に保護者の生活状況や育児への気持ちや困り感も変化しやすい時期

- ・ **問題が複雑、重症化する前に気付く**

→家族の変化に気付く

- ・ **子どもやその家族の歴史**

→担当が変わっても、継続している歴史があればそのバトンを渡していく相手が見える←そうでないと、親がいつも最初から説明しないといけない。

地域で生きる力をつけるために

教育（学校・幼・保）・福祉・相談が顔の見える具体的な連携をすることで

☆いろいろな角度からの支援や対応の検討が出来る

→チーム作り

☆途切れない支援の状況を作れる。

（担当者、状況が変わっても）

→その子（家庭）の歴史が出来る

困ったとき、悩んだ時に

客観的に相談できる場所や人があること

学校内（コーディネーターや責任者）や学校外でもOK

担任等の先生と信頼関係を築く大切さ

困ったときに、要望ではなく話を出来る関係を築くこと

療育センターだけではなくいろいろな相談できる場所が増えてきました

発達相談支援センター

子ども発達・相談センターきっずサポート

児童相談所

相談支援 計画相談をすすめられても・・・

- ・窓口は混んでいる・・・お母さんやって・・・
- ・受けてくれる相談支援センターが少ない・・・それぞれの相談支援センターの特徴

◎計画相談のメリットを保護者が感じられない

- ・窓口の調整より自分で行った方が早い・・・セルフプランが横行→
子どもにとって無理な状況も発生
- ・利用している放課後デイ等が行う・・・
- ・モニタリングの時期までに状況はかなり変化

☆学齢期の相談は一度（一件）で終わらない→継続が必要



その連携は、親が頑張るのではなく

相談支援や相談先、利用事業所等の
専門職の支援者の意識と役割

親の皆さんも諦めずに小さな声でよいので

挙げてほしい

子どもの成長を喜ぶこと

子ども・家族の数だけ

それぞれの未来があります。

一人ひとりの個性・特性に合った将来を考えることは
子どもにとってのよき理解者（チーム）を作っていくことでもあります

子どもの成長や発達を支えたり、その子育ては保護者だけではなく地域の周囲の人々と共に育てることが出来る環境が大切ではないでしょうか。

それは解決策を知ることが重要ではなく、「どう解決していこうか」と「共に考えていくこと」ではないかと思います。

子育てに向かうお母さんの気持ちを支える機会 出会う機会



感情で嬉しい、やった、という感情が一番共感しやすく、幼ければ幼いほどその感情を身体で感じる事が重要と考えます。



でんでん虫では子どもと一緒に楽しいね！（気持ち）を共有することが親子ともにとって重要な一歩となると思います。

いろいろな立場や環境、関係者の皆さんと一緒に
一人の子とその家族をいろいろな角度から見て（視て）
関わって行けたらと思います。

お父さんにも子どもと
一緒に
でんでん虫
土曜親子リズム



相談は川崎市全域が対象です
訪問は市内なら何処へでも伺います。
電話・メールでお声をかけてください。
相談に関することはすべて無料です。

今後ともどうぞよろしく願いいたします。
ありがとうございました。